

# 木製品はお客様の声とともに

CANONAJAPAN株式会社 代表取締役 中野翔太

URL <http://canonajapan.com>



## ■はじめに

CANONAJAPAN(カノージャパン)株式会社・株式会社中野製作所の業務内容は、製材・木製品加工・製造を主としています。

会社沿革は、昭和31年に中野正治が中野物産として創業しました。創業当時の業務内容は野球用バットの素材生産でした。昭和42年に、帯広市の工業団地に移転しブライキングバット(合板バット)生産を開始、製材工場を増設し、野球用バットの素材生産に特化した会社として株式会社中野製作所設立。その後、木材乾燥機の導入、集成材製造・建築内装材の生産を開始し、さらに業務内容の幅を広げてきました。

平成7年には、自社加工技術を生かし「TARISHVILI」という作品名で犬ぞりを製作し、北の生活デザイン展工業デザイン部門において銀賞を受賞。平成27年に地場産木材の高付加価値化、木材加工業を基盤とした新たな製品開発を目指し、関連会社CANONAJAPAN株式会社を設立しました。

現在は、地場産木材高付加価値化を模索する本別町の依頼で、地場産カラマツ材の製材、高付加価値化を目指した製品の試作・開発にも関わらせて頂いております。

## ■お客様への提案

最近では、本物志向のお客様も多くオーダー家具等で木材を使用してくれるお客様が増えています。公共施設等ではカラマツ材等の地場産材を使用する頻度は増えてきており、この背景には、地場産材を生かしたもののづくりということが、日本全国で取り組みとして行われていることも大きく影響していると思われます。

また、弊社でも一般のお客様に、より多く木製品を使用して頂くために、木材の特性をご理解頂き、使用して頂くということを心がけております。原木の製材から加工製作までを自社で完結することができ、お客様の様々なご要望に対応します。家具量販店などは

異なり、サイズや形状すべてにおいてお客様に合わせて製作致しますので、納品時には大変喜んで頂けるので、仕事を続けていく上でとても励みになります。

一昨年には、地元建築業者にご協力頂き内装、外装に木材をふんだんに使用した住宅を建築致しました。内外装建材などのほとんどを自社で加工し、用途に合わせて樹種を使い分けるということで、適材適所ということをテーマにさせていただきました。内装に多くの木材を使用させて頂いたことにより、とても温かみのある仕上がりになりました。このような経験をさせて頂いたことは、会社としてもとても良い経験になりました。基本的には建築業者様が住宅に使う一部の内装材等を、加工し納品で完了という業種ですので、今回のように建材、建具、木製サッシなどを製作できたことは、今後の製品作り、そして木材の利用促進につながると思いますので、引き続き事例を増やしていきたいと思っております。

現在は、木製カーポートや物置・ウッドフェンスなどのエクステリア製品にも力を入れております。特にカーポート・物置等は金属製の物を利用される方が多いのですが、最近では見た目の良さや風合い等から木材を使用して頂ける機会も増えてきております。お問い合わせ頂くお客様の中には「木製だと腐る」、「メンテナンスが面倒」などネガティブな意見を頂くこともあります。

しかし、これはさびが発生すればそこから腐食していく金属製の物にも言えることだと思っております。使用する塗料にも、一定の防腐防虫効果はありますので、そこまで深刻に心配することではないと思っております。木製の物を使用する上で大切なことはしっかりと数年に一度メンテナンス(塗り替え)をしてあげることですので、このことをお客様に必ずご説明し、納得頂いたお客様に使用して頂いております。

## ■製品紹介

「オーダー家具・什器」

お客様と打合せをして、加工製作致します。素材・形状・塗装など、すべてをお客様のご要望にお応えします。

①本別町で、特産品である豆をディスプレイするために製作した什器です。また、地場産木材消費にも目を向けていることもあり、一部素材には本別町産カラマツ材を使用いたしました。



②レジカウンター兼陳列カウンターです。

お客様のご要望で、いずれ配置換えをするとのことで左側のレジ台は、陳列カウンターの天板の向きを変えることにより、左右どちらにでも取り付けが可能となっております。



③本を陳列するための書架で、上部は裏表コルクボード使用の掲示板となっております。コルクボード下の本置きは、取り外し可能なスライド式なので、レイアウトは自由自在です。



④カントリー調家具

このようなスタイルの家具はとても人気があり、写真は学習机ですが、この他にもキッチンキャビネット等もオーダーで製作しております。使用すればするほど、味わいが出て来ます。



⑤エクステリア商品

「木製ガレージ・カーポート」

写真は木製ガレージ・カーポートです。お客様の使用用途、敷地形状等に合わせて製作しております。ガレージ部分の開口部は、木製折戸を採用しております。こちらもお客様のご要望に合わせてシャッター使用等に変更も可能となっております。



⑥形状はカーポートと同等ですが、用途は砂場の上屋となっております。素材にはカラマツの集成材を使用しました。木製カーポートは、見た目のダイナミック

さ、木素材を好むお客様からはとてもご好評いただいております。



### ⑦木製物置

物置と自転車置場一体型のタイプです。物置部分を工房として使用したいとのお客様のご要望で、窓を取り付けさせて頂きました。このようにオプションとして窓の取り付けのほかにも、内部の棚の取り付け等も行っております。



### ⑧木製キャビン

屋根は切妻で、屋根素材にはアスファルトシングルを使用しております。この見た目からガーデニングの一部として風景にマッチするため、お客様からはご好評頂いております。

今までは、移動式の店舗として使用される方もおり、その際には、開閉式のカウンター等を取り付け、ユニック吊用のフックを取付たりと、こちらもお客様のご要望に合わせて製作させて頂きました。



### ⑨ウッドフェンス

写真は、大和塀です。素材にはカラマツの無垢材を使用しております。和風、洋風、デザイン問わず1mから施工対応致しますので、ちょっとした目隠しとしても人気があります。



### ⑩屋外看板

サイズ・形状ご要望に合わせて製作致します。写真の看板は、カラマツの無垢材を使用し、柱には寸法200mmの角材を使用し、存在感のある仕上がりになりました。



### ⑪木製積木・木製おもちゃ

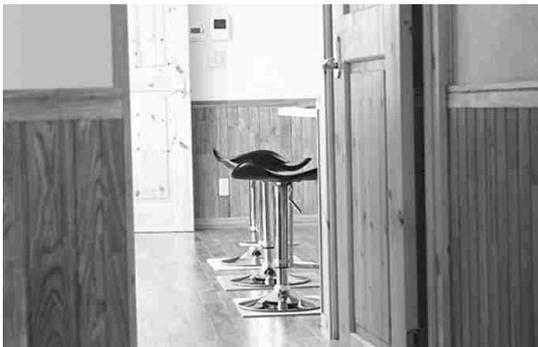
お客様が知人への出産祝いに子供のおもちゃを贈りたいということで、手押し車を製作致しました。車の中には積木が入っております。本別町が新生児誕生記念品として、子供たちに贈っている木製積木も製作しております。



## ⑫住宅

地元の建築業者と協力して、木材をふんだんに使用した住宅を施工致しました。外壁にはカラマツの無垢材を、内部にはナラのフローリング等を使用し、目に見える場所でもより多くの木材を使った仕様となっております。

樹種は、用途などによって使い分けをし、素材そのものの色・風合いを生かすために、塗装はクリア仕上げとしました。



### ■今一番力を入れてやりたいと思うのは

木材業者としての基盤を生かして、様々な方向に目を向けていきたいと思っております。例として弊社では現在燻製用に使用されるスモーク用チップを販売しており、

これは、食品と木材が関わり燻製という一つの製品ができています。

このように〇〇と木材というような、異素材との組合せを増やしていくことにより、新たな製品が生まれることは面白いことだと思いますし商売の幅も広がり、さらには木材の高付加価値化・利用促進につなげていくことが目標です。

そのために、異業種の方々とも積極的に関わりを持ち、意見交換などができる機会を増やしていこうと思っております。自分自身は創業者の祖父、そしてそれを引継いだ父が木材屋という環境で育ち、常に身近に木材・木製品に囲まれ生活してきたため、木製品に対する考え方が、少し硬くなっているような気がします。そんな中で、まったく関わりない人からの柔軟な発想で、気づかされることも多く、ものづくりをする上でヒントを得られたこともあります。このような時間を設けることは自分にとっても、会社の未来にとってもとても大切なことで新たなことにチャレンジする良いきっかけにもなると思っております。

### ■木の良さに関して

「木の良さ」ということを伝えるのはとても難しいことかなと思います。というのも、お客様の大半が木製品をみて、その見た目には大変良いイメージを持ってくれます。しかし、そのお客様の大半は木目調の合板などで作られている製品と、無垢材で作られている製品の区別ができておりません。私が感じたことは、お客様は木製品の見た目の美しさに興味があるので、見た目は木材で価格の安い家具などを量販店等で購入し満足してしまうのだと思います。

しかし、これは当たり前のことかなとも思います。自分自身も木材業に携わってなければ、そのような判断はできていないと思います。このような状況から、やらなければいけないと思ったことは、お客様が木を見て・触れて頂く機会をつくらなければいけないということです。自分自身がそのような環境で育ったということもあり、木材は自分で触れて初めてその良さを実感できる素材と思いますので、その素材に触れる機会を少しでも増やせるようにと、子供たちを対象とした木工教室の開催、イベントの開催を行っております。



(木工作教室風景)

昨年は、本別町で木に特化したイベントを開催し、弊社もその実行委員会の一員として、参加させて頂きました。実行委員会は、本別町・足寄町・陸別町、そしてその町内の林業従事者や木材関係業者で構成、川上から川下業者が集まったことにより、木材製品がどのような流れを経て我々の日常生活にたどり着くのかということを伝えようというようなことで構成されました。



今後もこのようなイベントを定着させることにより、本物の木製品に触れる機会が少なくなっている子供たちが、このようなイベントで木・木製品に興味を持って頂き、将来住宅や家具として使ってもらえるようなきっかけとなり、木材がより付加価値の高い製品に生まれ変わっていくためのきっかけになると思います。またエンドユーザーと関わる機会が決して多くない我々木材業者がこのようなイベントに参加し、自分たちの業務内容を、多くの人に直接知ってもらうこと



により、将来的にこの業種に関わる人も増えていくと思われま

#### ■木をもっと工夫して使いたい

これに関しては、前述させて頂いたように、色々な人の意見を参考にさせていただきながら、工夫して製品をつくっていただければと思います。

また、自社でも大量に出るは材等を利活用についても現在検討しており、自社にある木材はあますことなく、使えるような心がけをしていきたいと思っております。

#### ■林産試験場について

今までに、木製サッシの依頼試験等、たびたびお世話になっており、これからも、研究機関という立場で、木材の技術に関していろいろご相談させて頂きたく思います。



(木製サッシ依頼試験)

#### ■今後の展望

現在の業態としては加工業が大半を占めているため、なかなかエンドユーザーの方までたどり着くことは多くありません。しかし、少しずつですがオーダー家具や、エクステリア製品等で、直接お客様との関わりを持つ機会も増えてきております。

このような製品販売での割合を増やしていくために大切なことは、製品加工までをすべて自社で完結させて頂くことだと思っております。そして、打ち合わせから完成・納品までをお客様と直接させて頂くことにより、より作業もスムーズに進み、お客さまにとっても作り手がわかるということで、安心にもつながると思います。